

■ 研修の主な年間スケジュール (※2024年度 / 陶芸コース、ガラス工芸コース共通内容)



上記の他、各コースごとに館外研修や特別講義の実施、瀬戸市内の事業で当館の協賛イベントが開催される場合は参加・協力をお願いします。また、ガラス工芸コースでは年2回(7月・12月)の溶解炉壺替えに合わせて工房設備のメンテナンスを行います。

■ 近年の特別講師 (敬称略・五十音順)

- 入澤 聖明 (愛知県陶磁美術館学芸員)
- 板橋 廣美 (陶芸家)
- 氏家 昂大 (陶芸家)
- 梅本 孝征 (陶芸家)
- 奥山硝子工房 (森智広、ワタナベサラ / ガラス作家)
- 加倉井 秀昭 (ガラス作家)
- 加藤 令吉 (陶芸家)
- 木曾 志真雄 (陶芸家)
- 神代 良明 (ガラス作家)
- 齋藤 智愛 (岐阜県美術館学芸員)
- 酒井 智也 (陶芸家)
- 佐々木 雅浩 (ガラス作家)
- 高橋 秀治 (豊田市美術館館長)
- 中川 佳宣 (美術家)
- 中田 ナオト (陶芸家)
- 長江 重和 (陶芸家)
- はっとりこうへい (彫刻家)
- 早崎 志保 (ガラス作家)
- 林 奈美恵 (古川美術館学芸員)
- 松下 祐子 (ガラス作家)
- 宮路 雅行 (インストラクター)
- 吉川 正道 (陶芸家)
- 和田 奈津美 (中国茶インストラクター)



発行：2024年9月

研修生・修了生の展覧会情報や
新世紀工芸館の様々なイベント情報はこちら



WEB サイト



SETOSHINSEKI

瀬戸市新世紀工芸館 陶芸・ガラス工芸コース 研修制度案内 2025

Seto Ceramics and Glass art Center
Ceramics / Glass course Training program Information 2025

瀬戸市新世紀工芸館

日本遺産に登録され日本六古窯のまちとして名を連ねる愛知県瀬戸市は、平安時代後期から続くやきものの産地として広く知られています。

また、瀬戸地域の陶土層には、ガラス工業の原料となる珪砂が豊富に含まれており、明治時代以降は国内有数の産出地として評価されてきました。このように、歴史ある窯業地としての伝統と恵まれた原料を埋蔵する条件が整い、今日でも瀬戸市域には陶磁器を生業とした窯元の他、陶芸・ガラス工芸の作家が精力的に活動する工房や店舗などが数多く存在しています。

こうした制作に適した環境の中、芸術、文化に包括される美術工芸の発展と伝統的な技能や技術を修練すべく人材育成を掲げ、次世代へ引き継ぐ作品を展示し、広く普及活動に繋げ、陶芸・ガラス工芸の振興を図ることを目的として瀬戸市新世紀工芸館を開館し、20年余の歴史を誇ります。

研修制度〔2年間〕

瀬戸市新世紀工芸館の研修制度は「自由な制作」・「自由な創造」を基本としており、在籍する研修生は自らの課題に取り組み、また自らの計画に基づいて創造性豊かな表現を深めるための研修を行います。

研修生の日々の取り組みに対して工芸館では、より素材と表現に対する考察を促す機会として館外研修や各分野における外部講師を招聘した特別講義・作品講評等の開催、作品発表に繋がる様々な企画の提供を行っています。また、研修生としての多様な考え方を尊重しながら、新しい時代に向けた個と社会の関わりを多角的に捉え、専門技術のスタッフによる対話を中心としたサポート体制の中、俯瞰的視点を養うきっかけづくりに取り組んでいます。

そして館内には、年間を通して研修生が制作した作品を展示・販売するギャラリーが設けられている他、せともの祭をはじめとした各種イベント等への出展、年度末には当館の展示棟にて研修生作品展を開催するなど、作家活動の成果を発表する機会が数多く企画されています。



日本遺産のまち
瀬戸市

瀬戸市新世紀工芸館 Seto Ceramics and Glass Art Center

◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約7分。
- 東名高速道路「名古屋I.C.」から車で約30分。
- 東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分。

◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町8-1番地の2
TEL:0561-97-1001 FAX:0561-97-1005
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>
E-mail: sinseiki@gctv.ne.jp



■ 研修生インタビュー



左から「Asymmetrical robot h」(2024)
「robot hero」(2024)



第21期 陶芸コース研修生

もりまさ きょういち
森正 響一 さん

1997年 愛知県知多市生まれ
2020年 名古屋造形大学彫刻コース 卒業

2020年 motion#5 (名古屋市民ギャラリー-矢田/愛知)
2023年 個展「various robots」(Space & Café Barrack/愛知)
2024年 森正響一 示崎マキ二人展「ペルソナの触覚」(YEBISU ART LABO/愛知)
市民ギャラリー栄次世代アーティスト企画展
「LOVE ROMANCE ON THE FRONT LINE…」(市民ギャラリー栄/愛知)
グループ展「ひとのかたち」(L gallery/愛知)

□ 新世紀工芸館での研修を考えている方へ
在籍している研修生は、皆それぞれがしっかりと目的をもって制作に取り組んでいるので、お互いにとても刺激し合える環境です。

□ 今後の展望について
研修を修了した後は、まず瀬戸で制作を続けていきたいと考えています。また、さらに広い視野で様々な表現領域を見定めて、海外のアートフェア等に出品できるような作家を目指して頑張りたいと思っています。

□ 制作環境はどうか。
自分にとって、とても制作のしやすい環境です。入館を決める前まではカリキュラムがないとはいえず、学生の延長といったようなイメージもありましたが、実際は目的を持った人たちが作家として制作活動に励んでいて、刺激のある環境です。

□ 新世紀を選んだ理由
大学卒業後、自分に合った制作環境を探しながら仕事をしていました。その中で知り合った瀬戸の作家や、知人が新世紀工芸館の研修生として在籍していたことなどをきっかけに研修制度を知り、自分が求める制作環境だったことから入館を決めました。



「チェリーポケット」(2024)



「モカベリー」(2024)



第22期 ガラス工芸コース研修生

たかぎ あいな
高木 愛菜 さん

1994年 愛知県名古屋市生まれ
2024年 名古屋芸術大学 卒業

2024年 名古屋芸術大学卒業制作展 優秀賞
2024年 '24日本のガラス展 入選
高木愛菜ガラス展「Chain」/Galerie D'image (愛知)

□ 制作環境はどうか。
自由についてのびと制作をさせてもらっています。展示の機会も増え制作ベースを上げ頑張っていますが、設備や環境に特に不便は感じていません。課題はありますが、職員に相談に乗ってもらえるので、制作だけでなくそれ以外のことも学ぶことができます。

□ 新世紀を選んだ理由
大学卒業後も継続して制作に集中できる環境を探していたなかで、大学で開催されていた新世紀工芸館の説明会で話を聞いて興味を持ちました。大学の教員や助手のみなさんの中にも新世紀工芸館を修了された方や工芸館の元職員の方がいらっしゃったので研修についてお話を聞くことができたことも大きいです。他校の大学院への進学も検討しましたが、制作に集中できる時間の長さや課題のない自由さから新世紀工芸館に決めました。ワークショップや外部工房への訪問など、外からの刺激があることも理由の一つです。

■ 工房設備

2年間の創作活動拠点となる『工房棟』は、1階から4階まで陶芸・ガラス工芸分野における設備が整っており、冷暖房完備で制作に集中ができる工房環境となっています。各工房にはそれぞれ専門の技術スタッフが常駐しており、研修期間における制作技術や作家活動のサポートを行っています。また、研修修了生に向けた工房設備レンタルを導入しており、修了生の制作活動における支援も行っていきます。

陶芸工房

◀ 主な設備 ▶

電動ロクロ、土練機 (真空・常圧)、セラローラー、ガス窯 (2.0㎡:1基、0.5㎡:1基)、電気窯 (10kw:2基、15kw:1基)、吹付用スプレーガン、吸引機、コンプレッサー など



ガラス工房

◀ 主な設備 ▶

ガラス溶解炉 (クローズドポッド)、グローリーホール、ベンチ、徐冷炉、電気炉 (8kw、10kw、22kw:各1基)、ガレージ、小割切断機、平盤研磨機、縦軸研磨機、ベルトサンダー、ウォーターサンダー、サンドブラスター、アーク溶接機 など
グローリーホール、作業用ベンチは各3基あり、同時に作業が可能です。電気炉は吹き場と同じ室内にあり、ピックアップや徐冷にも使用できます。



4階

陶芸・ガラス工芸コース共同のフロアです。「施釉室」では釉薬作業以外に、石膏の原型制作や木工作業などにも使用することができます。



3階

「体験工房」では月1回程度、一般市民向けの陶芸・ガラス体験などを行っています。その他、研修期間における特別講義などの会場としても使用しています。



2階

ガラス工芸工房



1階

陶芸工房 窯場



◀ その他、共同の工房・設備 ▶

ポットミル、攪拌機、真空攪拌機、石膏ロクロ など

